

昭和53年11月1日

第138号

編集と発行

鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号 〒892

市役所のでんわ ② 1111

かごしま 市民のひろば

市の人口(推計)

(53.10.1)	(前年同月比)
人口総数 486,495人	(+ 8,559人)
男 230,719人	(+ 4,355人)
女 255,776人	(+ 4,204人)
世帯数 160,280世帯	(+ 2,717世帯)

危険性の高い妊娠婦が安心して分べんできるなど、周産期の母子を対象とした周産期医療センターがこのほど完成。完成にあたってセンター建設のきっかけとなつた五つ子くんが記念レリーフの除幕を行いました。

オープンは十一月下旬の予定ですが、総工費約十億円をかけ建設されたセンターは、最新の医療設備を備えるとともに、医師、看護婦が二十四時間交代で診療に当るなど、全国でも数少ない高度の母子救急医療センターです。そこで、その概要をお知らせします。

重症の未熟児や異常児を収容して常時診療したり、新生児センターとして母子保健指導部門は、三号館三階にあります。この部門には集中管理室が設けられ、重症妊婦を専門に扱う五つのベッドを備え、胎児の心拍などを測定しながら安全に分べんさせることができます。

もし誕生した子どもに異常がみつかった場合は、直ちに新生儿集中管理室へ移し治療します。新生児センター(異常新生児・未熟児部門)は、三号館二階に設けられ重症の未熟児を扱う高度な集中管理室があるのが特徴です。また四十床あるベッドのうちには一床一千万円もする最新の医療機械を備えたベッド(九つ)

がありますが、この装置は、

呼吸、心拍、体温、血圧、酸

素濃度を自動的に測定できる

ものです。

これらは看護センターと直結しており、異常があればた

ちどころにわかるシステムで

赤ちゃんの様子がテレビカメ

ラで、常時わかる仕組みとな

っています。

このほか、未熟児を収容す

るベッド十六床、母乳を長時

間保存できる冷凍室、検査室

などがあり、常勤医師七人と

看護婦二十四人が治療にあた

ります。

これまで、本県における周

産期の母子の死亡率は高く、

多くの子どもたちの命を守り育

てることでしょ

う。

センターは、分娩センターと新生児センターそして母子保健指導部門は、三号館三階にあります。分娩センターは産科救急部門で本館三階にあります。この部門には集中管理室が設けられ、重症妊婦を専門に扱う五つのベッドを備え、胎児の心拍などを測定しながら安全に分べんさせることができます。また、研修医師や看護師をはじめ、栄養指導・授乳指導を開講し、母子保健に関する知識の向上をはかります。また、研修医師や看護師をはじめ、栄養指導・授乳指導を開講し、母子保健に関する知識の向上をはかります。また、研修医師や看護

セミナーは、分娩センター

のことになります。

母子保健指導部門は、三号

館三階にあります。

ここでは、一般妊娠婦の母

親教室をはじめ、栄養指導・

授乳指導を開講し、母子保健

に関する知識の向上をはかります。また、研修医師や看護

セミナーは、分娩センター

